

親子聖書日課

NO.1730 2021.11/21-27

名前

[日]ダビデは主よりも千年前の人でしたが、「いつも目の前に主を見て」いました。どんなに多忙でも、主との交わりは絶やしませんでした。主を信頼していたので、不安は消え、喜びに満たされました。主との交わりこそ、第一にすべきことです。

[月]初代教会の人達は、「毎日ひたすら心を一つにして」祈り、主にある交わりをしたので、救われる人が起こされました。サンデー・クリスチャンではありません。主の愛に応じて、毎日、神第一の生活を選び取ったことが、良い証しになりました。

[火]教会にお金をねだりに来る人がいます。その時、紹介する御言葉が6節です。お金を与えても、その人の自立にはなりません。しかし、主を伝え、相手が主を受け入れるなら、「立ち上がって歩く」ことができます。「主のみ名こそ」伝えましょう。

[水]知らずにしたからといって、罪が赦されるのではありません。ユダヤ人の霊的無知が主を十字架につけたのです。言い訳は無用です。ただ「ごめんなさい」と主に謝り、「悔い改めて立ち帰る」神中心に生きることです。罪は消し去られます。

[木]どんなに医学が進歩しても、死はやってきます。どんなに文明が発展しても、罪はなくなりません。全人類を罪と死の滅びから救い出せるのは、昔も今も主イエスだけです。「天下に主イエス以外に救いはない」と、大胆に語り続けましょう。

[金]使徒達の困難な伝道報告を聞いた人々は、「今後、どうしようか」と話し合ったのではありません。心を一つにして祈り合いました。「思い切って大胆に御言葉を語れますように」と。すると聖霊に満たされ、大胆に語り出すことができました。

[土]「献げます」と主に約束しながら、献げる時になると惜しくなって一部しか献げられない人は、アナニアやサフィラと同じです。今日でいえば、十一献金やその他の献金をなおざりにして、自分の為にと取っておく人は、神の物を盗み、聖霊を欺くのです。



	聖書	問題	答え
日	使徒言行録 2:22-36	ダビデはいつも目の前に誰を見ていましたか。	
月	2:37-47	いつ、ひたすら心を一つにして神殿に参りましたか。	
火	3:1-10	金銀はないが何の名によって立ち上がり、歩きなさいと言いましたか。	
水	3:11-26	自分の罪が消し去られるように、どうすべきですか。	
木	4:1-22	私たちが救われるべき名とは、誰の名ですか。	
金	4:23-37	僕たちが、どのように御言葉を語ることができるように祈りましたか。	
土	5:1-16	アナニアは、人間を欺いたのではなく、誰を欺きましたか。	
感想と祈りの課題			